

日本犯罪心理学会第 60 回大会

全体シンポジウム

<テーマ>

脳から見た非行・犯罪

ー生物学的機序を非行少年・犯罪者への理解と心理支援に生かすにはー

<概要>

昨今、目覚ましい技術革新のおかげもあって、今までブラックボックスとされてきたヒトの生物学的側面に関するさまざまな情報が明らかになっている。動物の生態や脳科学といった分野の知見は、非行少年や犯罪者というヒトをよりよく理解するための手がかりを提供してくれるはずである。本シンポジウムでは、動物の反応をもとにヒトの根源を追求する動物心理学や、遺伝と環境との相互作用の観点からヒトを理解しようとする行動遺伝学、ヒトの脳と心の結びつき、問題行動の発現と適応の経過などについて、各分野の研究者に最新の知見をご紹介いただく。その上で、これらの研究成果を、ヒトに応用するためのヒントや、非行や犯罪の防止、あるいは非行少年や犯罪者への支援に生かす方法について議論する。

話題提供者：高橋阿貴（筑波大学）

酒井厚（東京都立大学）

岡野憲一郎（京都大学）

大隅尚広（人間環境大学）

指定討論者：藤野京子（早稲田大学・日本犯罪心理学会会長）

大会準備委員会企画ミニシンポジウムⅠ

<テーマ>

犯罪の予防的抑止への挑戦

<概要>

本シンポジウムでは、犯罪の予防的抑止の可能性について、異なるアプローチを用いた研究者を招き、予防医学の一次予防・二次予防・三次予防の観点に基づく議論を試みたい。本企画では、長年犯罪心理学を研究されている研究者の中から、再犯リスクアセスメントの研究者、性犯罪者の再犯抑止に関する研究者、学校における反社会的行動の予防に取り組む研究者の3者を迎え、犯罪者のライフコースの観点から、予防的抑止に関する限界と可能性を議論したい。

話題提供者：嶋田美和（徳島家庭裁判所）

福井裕輝（SOMEK）

吉澤寛之（岐阜大学）

指定討論者：濱口佳和（筑波大学）

大会準備委員会企画ミニシンポジウムⅡ

<テーマ>

特殊詐欺の理解と予防に向けて

<概要>

令和3年の特殊詐欺の認知件数暫定値は14,461件、被害総額は278億円に上り、依然として高齢者を中心に被害が高い水準で発生している。ヒトの社会性を巧みに悪用し、コストをかけずに実行が可能な詐欺の問題は、加害者側への介入だけでは限界があるがゆえに潜在的被害者への介入も重要となる。本シンポジウムでは、特殊詐欺被害者と自己看破者の比較分析、高齢者の脆弱性に着目した研究、特殊詐欺予防行動促進のための介入実験から明らかになったことを踏まえて、特殊詐欺の理解と被害防止に心理学がどう貢献できるかについて議論したい。指定討論には、特殊詐欺研究に携わっているお二人の先生をお招きし、これまでの犯罪研究を踏まえた現状の認識と今後の展望についてコメントをいただく。

話題提供者：原田知佳（名城大学）

澁谷泰秀（青森大学）

島田貴仁（科学警察研究所）

指定討論者：桐生正幸（東洋大学）

越智啓太（法政大学）